明治廿八年十月三十日印刷
明治廿八年十一月一日發行

婦人衛生雜誌

第七十二號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第七拾二號
目次

講演

◉生理學講義（第三回） 醫學士 坪井次郎君
◉肺結核に就て（前號の續）
◉エルドリッチ博士のコレラ豫防に關する家族心得
◉所謂腦病に就て

衛生叢談

◉虎列刺病の實驗談
◉精神病患者統計
◉倫敦の衛生
◉軍人軍屬入院手續
◉痘苗取締規則の制定
◉不具の多い國
◉近視眼の增加
◉衛生上の注意
◉再歸熱と地方衛生會
◉肺患豫防の注意
◉臺灣蕃民の醫術
◉東京豫備病院の患者總數
◉大日本婦人衛生會總會
◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第七拾一號
目次

講演

◉學校衛生 寺田勇吉君
◉肺結核に就て（前號の續）

衛生叢談

◉鰹節の滋養分析
◉護謨製玩具の撿査
◉北海道の水腫病
◉牛乳は臭氣を吸收す
◉肺患豫防の注意
◉日本の煉乳
◉衛生いろは歌
◉麝香中含有の毒
◉全國虎列刺病患者
◉コレラ病の減少
◉コレラト皮下注射
◉全國赤痢病患者總數
◉マラリヤ患者
◉衛生事務講習所の開始
◉廣告

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第七拾貳號

（明治二十八年十一月一日發行）

講演

●生理學講義

血液　（第二回）

醫學士　坪井次郎君演説

血液は紅色の液体にて心臓及脈管内に含蓄せられ一種の鹽味を帶たるものであります、顯微鏡を以て血液を撿して見まするに其内に無量の小体が存する事を認めます、之は矢張細胞でありまして血球と申します、其最多數は圓形の小板にて中央の部分が陷沒しており稍や黄色を帶びて居ります、此小板を名けて赤血球と云ひます赤血球の外に其數は遙に少くありますが、第二の小体があります、之は球形無色のものでありまして白血球と云ひます、血液中赤白兩球の數は凡そ赤血球數五百個に就き白血球一個の割合であります、

右の血球なるものは實に其形の小なるものにて殆と甖粟子位の容積の内に赤血球五百萬個を含んで居ります、何と非常の數ではありませんか、前文赤血球は稍や黄色を帶て居ると云ふ事を述べましたが之は其内に血球素と云ふ一種貴重なる色素を含んで居るからであります、赤血球個々に就きては其色は著しくありませんが、多數の赤血球が堆積するときは美麗なる深紅色を呈するに至ります、血液が紅色を帶ふるは全く此赤血球中の色素に由來するものであります、此血球素なるものは生理上極めて緊要の作用を有するものでありまし

て即ち血液が肺臓の毛細管中を循環する間に呼吸に依り吸入したる空氣中の酸素は此血球素と抱合致します血球素は酸素を伴ひまして全身を循り至る處の組織に酸素を與へ以て之を酸化せしめ人生の必要なる体温及運動發生の基を爲すものであります、酸素と抱合したる血球素を含む血液は鮮紅色を呈します、動脈中の血液は即ち之であります、之に反して血球素が酸素を缺乏して居るときは血液が暗紅色であります、靜脈内の血液は即ち之であります、

赤血球の形ちは動物種屬に從ひ異なります、顯微鏡を以て血液を撿査すれは哺乳動物、鳥類若くは魚類の血液を差別する事が出來ます、之は裁判の時必要の事があります、白血球の形は各動物に大なる差異はありませんか何れも形を有して居ります、白血球も亦種々の生理作用を營むものでありますが之を畧して置きます

以上赤白血球を述べましたが今血液中より此二種の血球を除きたらは何か殘るかと云ますに左の試驗を施せは良く分ります、動物の脈管を傷け之より迸出する血液を硝子器中に受け、之を安靜なる場所に置くときは管内の血液は三層に分れます、最下層は赤色を帶びて居ります、之は赤血球よりなるものであります、

中層は其色か白くあります、之は白血球の集りたるものであります、最上層は清澄透明なる液体でありまして之を血漿と云ます、此試驗に依りて明かなる如く血液は赤血球、白血球及血漿の三ツよりなる事が明であります、又血液中より赤白兩種の血球を去れは血漿か殘ると云ふ事も明瞭で

あります、偖此血漿は種々の物質を溶解して存して居りますが此件に就ては後に御話を致す事とし先づ茲には第二の試驗を述べ樣と思ひますし同じく動物の脉管を傷け其血液を試驗管中に受けますか今度は安靜ならさる場所に放置しますれは暫時にして左の變化を現します、其初め流動せる血液は固まりまして赤色の塊物を爲し傍ら透明の液を搾出します、此現像を名けて血液の凝固と申します而して今生じたる赤色の塊物を血餅と云ひ、液を血清と申します、血液凝固の原因を最も單簡に述ぶれは血漿中より纖維素と云ふ物質が排泄せられ此纖維素か赤白両血球を包裹して遂に血餅なる凝塊を生するのであります故に血液凝固とは赤白両血球が血漿中にある纖維素なるものに包まれ凝塊を成形するのであります、而して血漿より纖維素を奪れ殘りたる液が血清であります、偶々鼻血を發し或は皮膚に傷を受けて出血致すことがありても暫時にして出血は自然に止むものであります此止血の原因は脉管の破れたる部分に血液が凝固して此缺損部を閉塞し以て血液の溢出を防ぐが爲めであります、然る以上は血液の凝固と云ふものは極めて緊要の作用を有するものであります、若し血液に凝固の性質が之れ無きものと假定致しますれは一度脉管の破るゝときは其損傷が如何程微少でありましても此處より全身の血液が流出したちどころに死亡致さねばなりません、然るに通常出血がありましても直に血液が凝固して出血を止むるのであります、動脉か傷けらるゝときは血液の迸出する速力が早く從て凝固する暇か之れ無き爲め脉管が閉塞する事が出來ず身体中の血液が

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

溢出するに至ります、之れ動脈出血の危險ある譯であります、

之より血漿の事に就て述べます、血漿は前にも記載致したる通り血液中より赤白両血球を去り殘りたる液を指すものであります、血漿の中には種々なる成分を含んで居ります、第一は纖維素其他の蛋白質をも含んで居ります、又砂糖、脂肪、鹽分及酸素、炭酸、窒素の三瓦斯をも含んで居ります之れ等の諸成分は何れも身体に緊要欠く可からざるものでありまして即ち身体を養ふものであります、血漿中の諸成分は消化器内に於て食物が消化されて吸収せられたるものより由來するのであります

全身血液の總量は成人に於きましては凡そ体重の十三分一のものであります、例之は十三貫目の体重を有する人がありますれば其人の血液の總量は一貫目の割合であります、血液の量は時に據り著しき差異あるものであります、血液の乏き有様を貧血と云ひます、種々の病氣の時にに貧血に陷ります、殊に貧血の甚しきは大出血後であります貧血せるときは顔面が蒼白にて口唇及諸粘膜の色がさめて居ります、

血液の効用を總括して述べて見まするに血液は人の一生涯瞬時も絶へず身体を循環して食物より由來する諸成分を組織に送り其營養を司り即ち消化せる食物を組織に取り次ぐものであります、之に兼て組織の營養後産生する不必要のものを取りて之を肺臓、皮膚等へ送り身体を去らしむる媒介を爲すものであります、

（以下次號）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉肺結核に就て　（前號の續）

之を以て人工で結核を拵へることが出來ると云ふやうになつてからは決して間違ひない是れは只理論上丈のやうに御座りますけれども大變必要な話であるなせかならば若し遺傳性のものとすればですもう結核の両親の間に出來た子供と云ふものは到底結核を免れさすると云ふことは出來ないと云はにやならぬ併しながら傳染性のものだと云ふことが分つた以上は生れ落ると直に之を保護することが出來る即ち親が生み落したらば其親から直に離して他の處で十分育て上げてさうして親の結核に罹つて居る所の母親の乳をも呑みませずして他の健康の家で十分に育て上ますれば決して傳染する氣支はありませぬからして十分子供を育て行きさへすれば結核患者の子供でも免れさすることはできる是れは豫防上且一体の結核患者の子供を取扱ふ上に於て最も必要のことで御座りますから遺傳性であるか傳染性で有かと云ふことは學理上定めて置くと云ふことは大變必要なる問題である。で此結核患者の乳と云ふものも實に恐ろしいものであります併しながら此乳は想像して恐ろしい程こわいものではありませぬ一寸考へますれば肺病に罹て居る所の母親の乳を其子が呑めば必ず其結核の黴菌が乳の中に交つて居りさうなものでござりますけれどもそれ程こわいものではないなせかならば肺が冒されて居つても結核菌は乳の中には交つて來るものではない併し若し此乳腺が結核に罹て居ると、さうすると乳の中に始終結核の黴菌を見出すそれで此乳腺が殊に結核に冒されて居る所の母親の乳と云ふものは子供に無論飲ませ

ることはならぬ併し此腺が縱し冒されて一般の肺丈け冒されて居る母親の乳でも飲ませて惡いと云ふことは第一に營養が足らぬのと第二にはそれを飲ませると先づ十中の八九は傳染さすると云ふて宜いなぜかならば母親が子供に乳を飲ませまするときは乳首を大きくする爲に必ず唾を付けて摩擦しそうして子供の口へ入れると云ふことは獨り日本のみならず万國の親が悉く乳を飲ませるの習慣となつて居りますそうしますると結核患者の母親の口の中には始終結核の黴菌が交つて居りますから乳首につけまして即ち結核の黴菌は乳から飲みませぬで。口から移り居ると云ふて宜しい位に險呑なもので御座りますから。さう云ふ習慣的の危險なることが御座りますから結核に罹て居る母親の乳を子供に飲ませるものではない乳の中に交つて居らぬでも人工にまじらして飲ませる恐れがありますからして……それから又結核と云ふものは皆さん御承知の通り牛が大變結核に罹り易ひもので牛の結核と云ふものは人間の結核位に余計にある殊に日本に來て居る所の乳をしぼりまする牛には隨分結核は多いものであります併し是も一寸先刻申上ましたように牛の乳も乳腺が結核に罹て居らなければ肺が結核に罹つて居つても其乳には交つて居りませぬけれども牛だといふても始終咳をして唾を出して矢張り肺の分泌物をそとに出しますからして牛の喰ふ草などの中には結核菌が始終交つて居りますから牛は其上へ寢たり何かするものですから草の上に付いて居りまする所の結核菌が牛の乳首に喰付くといふことは是は隨分免れぬ話ですからさう曰ふはづみで乳の中に結核黴

菌が交つて居ることも是は隨分あることで是まで試驗上でも見出した事が有るものですから牛も其乳の中から直接に結核の黴菌が出ぬでも牛が結核に罹つて居れば其牛の乳を飲むことはこわいことですそこでそれはどうすればこの廣がッて居る所の結核病と云ふものを先づ公衆衛生上で防ぐことが出來るかと云ふことが是が衛生學者の問ひでありますす或る傳染病は其消食器から這入ッて來る即ち口から這入ッて胃の中に這入ッて腸に來て腸でそれ丈けの發育をして毒を逞しくして其病氣を起す又或る傳染病になると消食器からは決して往かない即ち口から往ッて腸の中にまでは送らずに呼吸器から這入り込んで起る傳染病がある二タ通りある其消食器から往く傳染病は腸窒扶斯虎列剌赤痢のやうなものであるそれから呼吸器の方から來まするのが肺病のやうなものであるとか或は疱瘡のやうなものとか痲疹のやうなものとか云ふものは多く此呼吸器の方から這入ッて來る然るに公衆衛生上で此方の種類の傳染病を防ぐのにはどつちの方が防ぎ易いかならば無論消食器から來る傳染病を防ぐ方が防ぎ易いなぜかならば消食器から來る傳染病は其媒介となる所のものが極り切ッて居りますから即ち飲食物喰物飲水と云ふもの丶外と云ふものは媒介となるものはない飲水は公衆衛生の整ッた國に行きますと一定の水道の立派なものが出來て居りますから其水口に持ッて往ッて毒物を撒込まぬ以上は決して此飲水から腸窒扶斯や虎列剌がうつるといふことはないやうに是は防が出來る總ての傳染病の病毒バクテリヤ或はブロッツンのやうなものが一定の温度に合ふと悉く死ん

で仕舞ふそれで此水でも或は其外の喰物でも沸騰点迄煮へさへすれば決して恐ろしいことはない悉く死んで仕舞ふ若し過つて腸窒扶斯の病毒が食物の中に這入つて居りましても之を生物で喰はずに沸騰点まで煮て喰へば決してこわいものではないそれで御座りますから消食器の中から這入る傳染病は防ぐことが出來る一は公衆衛生法で水道を改良して怪しい水は飲まぬやうにし一は個人的の衛生でそう云ふ病氣の流行するときは必ず一度は煮て喰ふと云ふ樣にすればそれ丈け一般の人が注意すれば消食器から來る傳染病は防ぎ得ますれども此呼吸器から來る病氣は公衆衛生法では余程難い加何に土地を清潔にし如何に飲料水を善くしましても(幾分かは宜しうござりますれども)消食器から來る傳染病を防ぐやうな譯には往かぬ塵と一緒に口に這入るから空氣を一々消毒する譯には往きませぬからして余程難いそれで御座りますから斯う云ふ呼吸器から來る病氣即ち肺結核のやうなものに至つては一般の豫防をするのは余程難ふ御座りますから是は個人的の豫防を講ずるのが最も必要である其個人的の豫防法はどうするかと云へば第一に病人があつたならば痰の始末を一番に能くしなければならぬ不幸にして結核の患者が有て醫者が之を結核患者と診斷をしたならばですそれは情實上御前の痰の中にはこわいものがあるからして用心して呉れいと云ふことは親に對して子に對して言ふに忍ひぬやうなことが御座りましやうけれどもそれは姑息の情で今日それ丈こわいものとが分つたならば決して猶豫する譯のもではないからして十分に其始末を付けねばならぬ其始

末を付けるにはどうするかと云へば結核患者の吐く處の痰の入物は極めて置いて決して外に吐くことはならぬといふことは實に必要であるさうしてどうするかならば其痰を皆消毒して仕舞ふのである此消毒しまする法にも色々ありますけれども斯ふ云ふことゝ云ふものは一般の人が極く理解し易くして極く容易く實行することが出來て其上に金の掛らぬと云ふ之れ丈のことが極く必要でござりますからして或は石炭酸の大變強いものをコップの中に入れてさうして痰を吐き込まするとかすれは隨分防ぐことが出來ますけれども石炭酸の強いのを始終出して置くと云ふことは隨分金の掛ることであるし第二には若し過まつて入物を壞はしたりすると石炭酸はまだしもでござりますけれども此頃は病家に往つて見ますと昇汞水を入れてろれに痰を吐ッ込みまするものがありますそれはもと醫師が敎へたのでござりますけれどもそれが自然と習慣に成て居る樣でありますで是は非常の劇藥でござりますから過ッてこぼしたり何かしますれば獨り劇藥だから危險のみならず總べての器物を壞はして仕舞ふ昇汞水が鑛屬のものゝ上にこぼれでもしまするとまるで腐敗されて仕舞ふ或は布片のやうなものにこぼれゝはまるで腐て仕舞ふと云ふ樣な危險がありますから素人には取扱はせると云ふことは余程危險の事でござりますからさう云ふことは成る丈け避けなければならぬそれをさけて少しも危險でなくして最も費用も安く最も人もし易いと云ふ方はどう云ふ法かならば斯うするが一番宜い肺病患者か有ッたらば其肺病患者の枕元に或はまだ寢て居る人でなければ始終自分

の傍に一ッの極く安い所の（貧富に應じて、御座いますけれども）極く安い丼のやうなものか小さい燒物甕のやうなものを始終傍に置てそれに痰を吐き込むやうにして鼻紙で始終痰を拭ひて袂の中に入れるとか云ふやうな悪い習慣を去らして仕舞つて壺の中に吐き込ませる樣にして若し唇當りに付きましたのをば紙で拭ひ取て其紙も壺の中に入れて決して口から出た所のものを外の處に置かぬやうにして必ず其壺の中に入れるやうにして其壺を二ッか三ッか交換の出來るやうにして置ひて病人に依ッては一晝夜に餘計に痰を吐く人もあり又少なく吐く人もありますからそれに應して壺の大小もありますが其吐込ませるときは下に何も入れて置かぬでも宜しうござりますから上に蓋をして置て半分も痰が溜たならば今度は外の器を以て來て吐き込ませるやうにして大概其痰の分量の三分の一位殆ど半分入るれば七分です洗濯曹達です通例最も安い洗濯曹達を入れてそれから湯のぐら〳〵煮立ッたのを壺へ八分目入物の八分目まで湯を注ぎ込みさうして蓋をして置いて其湯がさめる迄うつちやッて置くさうすると結核の黴菌は皆殺されて仕舞ふ是が一番金が入らず手が掛らず危險でなくして誰にでも理解して出來る法でござりますどうしてそう容易く死ぬるかならば總ての黴菌は酸類に會ふと硫酸のやうなものに逢ふと直ぐに死ぬと云ふことは分つて居りますけれども酸類は中々危險なものでござりますから素人の病人の處にはさう云ふものは與へられない亞兒加里性の物即ち曹達のやうな物は少しも危險な事はないが尤もアルカリ性の物でも腐蝕加里か腐蝕ナトリ

エムとか云ふものは危險で御座りますけれども通例の曹達の如きは少しも危險な事はない曹達は冷めたい水の中に入れて溶したのでは少しも黴菌を殺す力はない沸騰點の温度の湯の中に曹達を入れて溶解するとさうすると其曹達が黴菌を殺す働と云ふものは非常に强いもので御座りますそれであるからぐら／＼沸騰して居る湯を是れに入れますれば此中に痰が這入ッて居りますから攝氏の百度の温度にはなッて居りませぬけれども少なくも八十度の温度にはなッて居りますからすッかりさめて仕舞ひまするには半時間位は掛りますから其間に黴菌を皆殺すことが出來る是は我々が試驗で證明した所の事でござりますから決して間違ない是が痰を消毒するには一番容易い方でござりますからさう云ふ風にして十分に痰の始末をして往くやうに人々がなりそれから病人がです結核に罹で居る患者がです自分の痰の中には他の人に傳染するこわいものがあるといふことを能く理解して呉れて公衆の爲に自分の痰は消毒せねばならぬと云ふまでに人が進んで來れば結核も從ッて減ッて來るに相違ないなぜかならば結核病人の廣がるは結核の痰より他に廣がるものはござりませぬからそれが一番必要でござりますそれから此牛乳から結核がうッたと云ふ話もあることでござりますから是も余程注意をせねばならぬそれをするにはどうするかならば牛乳を今申上ましたやうに沸騰点まで煮れば結核の黴菌が死んで仕舞ひますから縦し過ッて牛乳屋の持ッて來た牛乳の中に結核菌がありましても煮て飲めば差支はありませぬ是も容易い話で御座ります今日では牛乳を生まで飲む人

は少なくなッて來たから必ず煮たてなければ飮まぬと云ふ事は大變宜い事で牛乳から結核を移すと云ふことも是も容易く防ぎが出來るそれで此結核を蔓延させまいと思ふにはどうも公衆衛生上では水道を改良して腸窒扶斯や虎列剌を防ぐやうな譯には往きませぬから即ちこれは教育のある人等が銘々にさう云ふ考を起すやうになりますれば此肺結核は漸々に減ッて來るに相違ない道理上減るに相違ないそれから此肺結核に付いては病氣に罹た以上は素より治療法と云ふがなければなりませぬ其治療法はコッホが見出した處のツベルクリンが結核の治療法に於ては先づ此右に出づるものはないと深く信して居ります然し此事に就ては專門內の話でござりますから今晩は別に御話し申しませぬ

●エルドリッチ博士のコレラ豫防に關する家族心得

目下戰地より歸り來りたる兵士、軍夫等が斷えず輸入し來りたる虎疫に就ては政府當局者も其の撲滅に力を盡くして殊の外滿足なる成功ありたりと雖も豫防上最も大切なるは一個人が各々攝生の道を守りて注意を深くするに在るを以て今老婆心に過ぎざるも左に一個人が日常の心得となるべき二三の豫防法を指示すべし

余は元來虎疫の豫防策に就ては多少の經驗ある者にして即ち虎疫の流行する每に其の豫防法を研究し既に八年餘の歲月を積み且つ過去十ヶ年間に於ける豫防法の進歩等に與りて力ある者なれば今や此問題に就て多少陳述する所あるも決して差出が

ましき業には非ずと信ず

コレラ病は其の猖獗を極めたる時に於ては頗る危險なるものなれども然れども傳染病中にては最も豫防し易き病なり而して其蔓延を來す一番恐るべき原因は各個人の無智と不注意との二なりとす

今此れよりコレラ病の傳染する狀態及之れを豫防する手段とに就て述ぶる所あるべし而して余の語る所は聊か知れ切つたる事柄を繰反へすの觀なきに非ずと雖も大抵の人は喉元過ぐれば熱さを忘るゝと云ふ俚諺の通り焦眉の場合に於て一時學び得たる豫防法などは大方其の危險の過ぎ去ると共に悉とく忘れ果つる者多きを以て敢て陳腐の誚を顧みず江湖の利益のために一言申述ぶる次第なり

コレラ病の傳染は大抵水分傳染と云ひてコレラ患者の用ひたる器具或は吐瀉物等に觸れて其の病毒を混入したる水より來たるものなり而して其の傳染する仕方は千差萬別にて或は此病毒を混じたる水にて洗ひたる果實野菜等を食したるがため或は患者に接近し居りたる人々の汚穢したる手などより識らず知らず感染するとあり例へば輕症なるコレラに罹るものは一見せし所にては患者なるや否やをも知り難きものにして斯る患者に事へたる婢僕の調理したる食物は何人も平氣にて飲食するは亦怪むに足らず此等のことに依りて不意に恐るべき病毒の蔓延を來すことなど決して少なからず

コレラ病の傳染する仕方は即ち右に述ぶるが如きものにして從つて之を豫防する方法も決して難事にあらず即ち左に其の一般の要點を說き示す可し

第一　飲料に供する水は一切煮沸すること或はコレラ病の確かに發生せざる土地より壜詰にして來

りたる水のみを用ふること

此注意は唯に飲料水のみに限るに非ずして化粧用の水も盥漱用の水も食品の調理の用に供する水も器具を洗滌する水も皆此法に依らざるべからず

酒精を水に和して飲む時は水中の病毒を消滅する効能ありと云ふ者あれど是れ至大の謬見にして決して斯る効能なきものなり又ラム子等の清涼用飲料を製造する者は煎沸したる水か或は蒸溜水のみを使用することを肝要とす但し此事たる右製造人等の徳義上の責任たるは勿論なれ共政府も亦た法律を以て之が取締をなすを要す

又此取締法は氷製造人及び牛乳商等にも應用せざるべからず氷は其の製造に用ひたる水の中に在る原毒を能く保存するものなり又煎沸したる水が防腐の効能あることを知らざる牛乳商等が取扱ふ牛乳に就ては特に嚴密なる干渉なかるべからず

牛乳を飲む前には必ず煎沸すべし是れ決して奸商が水を牛乳中に混和するの恐れある故のみに非ずして其の牛乳を入れたる器物を洗ふ時に煎沸せざる水を用ひたるの恐あればなり

第二　コレラ病流行中は生蔬菜又黄瓜の酢揉等の如き生の野菜を食せざること

此注意は人糞を肥料とする國々に於ては殊に必要なり

果物の未熟又は熟し過ぎたるものに非ざれば煮て食すれば害なし又生にて食はんとする時は無害の防腐劑に一時間以上を浸し置くを要す即ちザリシル酸を五十倍に融和して其の中に浸し置き之を食せんとする時には更に之れを熱湯中に浸すべし

第三　食料品の有害無害を擇ぶに甚だ過慮に拘泥

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して徒らに食物の種類を制限するは寧ろ無益なり然れども不消化物若くは下痢を來たすが如き食物は決して之れを食ふべからず貝類は宜しからず調理したる果物と雖も度外に之を食するは害あり總して日數を經たる物を食すべからず

第四　家族或は婢僕にして下痢症に罹り居る者ありや否やを嚴密に取調べ且つ其養生及び注意等を怠らしめざるを要す而して此注意の必要なる理由は二個あり第一はコレラ患者の多くは其の發病の初めは苦痛も格別になく唯だ數回の下痢あるのみ斯くすること數時間乃至數日間引續きたる後俄かにコレラに變症するものにて其の初めの場合に於ては之れを治療すること極めて容易なりと雖も一たび虎疫に變じたる時は其の治愈頗ぶる困難となるを以て其の下痢症たる時に之れを發見して醫療することの如何にも大切なり第二は腸の緩慢を患ふる者即ち下痢病者は通常の人に比すればコレラに感染すると容易なるを以て豫じめ之れを戒むるは亦最も必要のことなり玆に特筆すべき一事はコレラに罹れる初期の下痢は大概苦痛なきものなるに世人は虎疫と云へは劇烈なる苦痛なるものゝ如くに心得初期に於ける苦痛なき下痢を輕々しく看過して遂に生命を失ふに至るを以て此の如き愚をなさゞることに注意する是れなり

第五　玆に注意を與へんと欲する所は最も重要なる事なり塵芥は悉とく之を取捨つべし而して寧ろ燒き捨つるを可とす下水と便所殊に婢僕の便所は掃除を怠るべからず又下水の汚水及び便所の糞尿を周圍の地面に浸濕せざらしむる樣注意すべし從つて便所の糞壺は陶器を用ひ決して樽などを用ふ

べからず萬一浸み出だしたる汚水を地下より井中に通じて知らず識らず之を飲用するが如きことあらば是れ實に由々敷大事なり

第六　本項の注意は前項の言を繰反へすに近かしと雖も更に注意すべきものあり即ち假令安全なる食物なりとも自から信ぜざるものを食する勿れ又コレラ患者に近接したる時は其場所にて一切飲食すべからず若し必要の場合には十分に手を洗ひ且つ消毒したる後に非ざれば飲食すべからず

其の他人と場所とに依て注意すべき點は各々相異なれども此れは本説に詳述すべき限りに非ず之は平生熟知の醫者に相談するを可とす左れば豫防消毒の法は兎に角嚴重に取行はざるべからず

以上述べ來たりたる心得を滿足に實施することを得ば虎疫を豫防し撲滅する上に於て必ず非常なる成功を得べきなり云々

◉所謂腦病に就て

一躰此腦の病或は精神の衛生など、云ふことは私立衛生會の會場には時々に現はれて居りますけれども、先づ全躰に申しますると云ふと傳染病の御話の方が重もでありますから、私は今日此腦の病と云ふことに就いて御話致さうと思います、玆に掲げました所謂腦病、此所謂と云ふところに意味があります、腦病と申すと大變に區域が廣くございますから中々ちよつとには御話が出來ませぬでございますけれども、此頃世の中には私は腦病だとかあの人は腦病だとか言つて居るのを度々聞きます——其腦病の御話を聞きます、昔から矢張腦病と云ふものがあつたには違ひませぬけれども

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も、腦がどう云ふ作用をするかと云ふことは分らなかつたときには之れを腦病とは言はずに外の名を付けて置きました、病氣の名も時世と共に替りまして昔は疝氣であるとか寸白であるとか傷寒であるとか言つたのが、リヨウマチスだとか子宮病だとか膓窒扶斯だとか新らしい名に替つて來ました、今それで世の中で腦病と人が稱へて居りますところのものは多くは吾々の申しまする神經衰弱と云ふもので、或は之を腦衰弱とも申しまするところのものであります、此病は隨分多くありまして當市中の患者の中には肺病だとか胃の病だとか云ふやうな患者などに其數に於ては讓らないだろうと思ひます、其神經衰弱 或は腦衰弱と申しまする　ところの病の症候と申しまするものは、例へは頭痛がする、眩暈がする、又は記憶力が無くなる、物に倦き易くなる、根氣が無くなる、さうして今迄自分の執つて居つたところの事業に堪へなくなる、例へば本を讀みますると云ふと其讀んだものが明瞭に頭の中に這入らない、それから字を見て居ましても一頁も讀みますると云ふと其字が一々に分らなくなる、詰り一緒に混同して仕舞ふ、それからそれを續けてやるともう忌やになつてそれより先づ讀むことが出來ない、或は又手紙を書きませうと思ひますとそれを書き始める迄が中々骨が折れる、書き初めても長い手紙であるといやになつて來る、それから又夜は十分に眠ることが出來ない、或は又眠ることが出來ましても夢の爲めに――恐い夢であるとか、或は全く理窟のないやうな夢を見まして熟睡することが出來ない、其爲めに明朝になりまして眼が覺めても精神が爽快

でない、それから又それに反して晝の中は一定の事業を執りますと却て眠くある、それから又動悸か致しましたり、食事の後に腹が張つたり、或は運動致しましても疲勞すると云ふやうな色々の症候を持つて來ます、夫れを通例人が腦病と申して居ります、醫者の方で云ふと神經衰弱とか腦衰弱とか申しますが之れが今非常に多くあつて居るやうに見えます、之れは傳染病や其他の危險ある病の如くに人を殺しは致しませぬけれども、人をして事業を爲すことが出來なくならせる、夫れでありますから死にはしないけれども詰りむづかしい事をなし遂げることが出來ないやうになりますから、國家の經濟に及ぼす影響は矢張大なるものであらうと考へます、此病は殊に外國でありますと亞米利加に多くありまして、此病を始めて記載したビールドと云ふ人は亞米利加に固有の病であると申した位のことであります、併ながら昔から此病があつたに違ひない、漸く近世に至り醫學の進むに隨つて人の之れに注意をして來たのでありませう、亞米利加は御覽の通り新しく開けました國でありまして、殊に金を持つて居るものは大臣にもなれゝは何にでもなれると云ふ所でありまして隨つて金を儲けるとは骨打つて、爲に身體も精神も遣ひます、でございますから此病の多いのも理のある所であります、其外西洋諸國にも澤山ござりますし、又日本にも維新以來歐羅巴の新しいものが輸入されまして、隨つて又夫れに就いては新しい腦力を有することが多くあります、故に開化の度が進むに隨つて此病が多くはなりますけれども、殊に急變のあるときに――開化の度に於て

急變のときに此病が多くあるに違ひない、ちよつと例を引いて見せますると汽車に乘ります、汽車に乘りまするにも東京あたりに生れて居りますところの子供は何にも造作なく乘るけれども、田舍の百姓にして見ると骨が折れます、一定の時間何時何十分と云ふに乘らなければならない、其時間までに停車場へ往ツて切符を買ひ又汽車の部屋を爭つて取らなければならないと云ふ場合がありますから非常に骨であります、でございますから慣れない仕事をやると云ふことは極く造作ないことでも骨が折れる、それが爲めに神經の力を餘計費じますからそれと同じやうに新しい開化の事物が一國に這入ツて來まするど、例へば電氣とか蒸氣とか創まると云ふと大變腦力を餘計用ひなければならない、隨ツて腦を使ツた結果の病も多く生じて來なければならない、故に急に來りまする開化の度と云ふものが此病の發生には大に力がある、それから又生活の狀態之れも統計を取ツて見まずると云ふと、神經衰弱の最も多い所のものはどう云ふ職業を爲して居ります人かと云ふと、商人學生教師それから役人等でそう云ふ職業に多くありまして、それからして單に働いて居ります所の人足でありますとか、或は又百姓とか云ふものには割合に少ない、即ち腦を餘計使ひますところの職業を執つて居りますものに一番多いそれから又年齡にも關係致して居ります、一番に身躰を使ふ精神を使ふ所の年齡即ち二十歲の前後より四十歲位の間に一番多くあります、さうして男子の方は女子より多い、女子にもあることはありますが割合に少いと云ふやうな關係がある、それで誰で

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も精神を使ふ職業を執る人は神經衰弱に罹るかど申しますとさうじやない、人に依りまして精神の勞働に堪へ得る人と堪へ得ない人とがある、又身躰の勞働もそれと同じことで堪へ得る人と堪へ得ない人とがある、又人に依りましてさう云ふ病に罹り易い即ち醫者の方で云ふ素因と云ふものを持つて來る人がある、譬へて申せば外の病で申すと身躰が弱く出來て居るものは肺病に罹り易い、それと同じやうに神經衰弱に罹り易い素因を持つて來る者がある、それは其祖先とか父母でありますとか祖父母とか云ふものに他の神經病があるとか、或は精神の異常があるとか、卒中であるとか、癲癇であるとか云ふ神經病があつた、或は又父母祖父母等に酒を澤山飲む人があッた、或は又た此人の生れるときに父母の身躰が弱つて居る、例へは慢性の病に罹ッて居ッたとか、或は他の原因に依ッて營養の不良を來して居るとか、或は又父母が血族結婚であッたとか云ふやうな場合には、それから出來ましたところの子供が神經衰弱に罹り易い、血族結婚と申しましても其血族が全く健康であれば害はない、尤も一定の度迄は法律で制限してありますが、全く健康であれば害はありませぬが、それが少しでも缺點があれば同じやうな缺點が集りますからして、大變に後胤に害を遺すと云ふやうに素因と云ふものがある、それから又精神を使ひまする方の側にも、其使ふ所の狀態に依りまして勉强致しましてもそれが面白くして勉强するのは害にはならない

或は一定の事務を執りますにしても面白くして執るのは害にならない、併ながらいやな事を勉强し

て強ひてやると云ふとは餘程害になる、或は事務を執りましても或る官吏が其長官の氣むづかしい人であるとか、又怒りつぽい人であつて其下にあると、さう云ふものは氣骨が折るから、隨つて罹り易い、詰り不快な感覺を待ッて居るものは神經衰弱に罹り易い、或は又同じ仕事をする即ち仕事に變りがなく毎日同じことをやッて居るものは大變精神の疲勞に大に關係致します、幾らかづゝ變化がありますと云ふと精神は疲勞致しませぬけれども、同じことをやッて、居ると云ふと疲勞致しますそれから又驚き例へば汽車に乘ッて居りまして其汽車か衝突しまするとか、或は強い地震がありますとか、自分の家から火事か起るとか云ふ塲合には非常な衝突を精神に與へる、其時分に能く神經衰弱などを起します、地震などでもそうであります、緩るく〳〵と搖ッて來た所の地震はそれ程に感じない、併ながら急激に來た地震は家を倒して仕舞ふと云ふやうな風に、人間の精神にも徐々と來た感動はそれ程害を與へませぬが、急激に來た感動は非常な變化を起します、併ながらさう申しましても一様に參りませぬ、漸次に來た所の刺戟であッてもそれが長い間續きますれば害を起す此「てーぶる」でも手で斯う振りまする時分には毀れませぬが、之を強く振るか或は長い間始終振ッて居ると毀れます、それと同じ様に精神にも不快の感覺が一時あるとか、或は心配することか一時あるとか云ふとはそれ程に害はありませぬが、それが永く續きまするど神經衰弱を起す原因になるそれから又若い人であると教育が關係を持ッて居る、子供の精神の發達致しますときに強い刺戟を

與へる即ち非常に嚴に教育しまするとか、或は又寛に過ぎるとかして氣儘にさせて置くと、後に世の中に出て今迄爲した通りに往きませぬから、總ての事が不快に感ずる、それが矢張神經衰弱を起す所の原因となる、それから色々の病で神經痛がありまして長い間痛みを持つて居るとか、或は熱病で身体が弱つたとき、或は慢性の病で身躰が弱ると云ふのは矢張腦に影響を持ッて居ります、健康な身躰には建康な精神があると云ふやうに、身躰が弱れば腦が疲勞し易くなる總て此病を起しますところの原因と云ふものは非常に多い、吾々は始終其境遇に遭つて居る塲合でありますけれども其精神の平均を失なはないと云ふのはそれに堪へれば平均を失なはないでありますが、それに打ち勝つことが出來なければ平均を失うて仕舞ふ、それで先づ通例此病を豫防するにはどう云ふ方法を取らなければならないかと申しても、傳染病や何かの樣に交通遮斷をやると云ふやうな譯にいかぬから、子供であれば先づ其教育から注意をしなければならない、吾々醫者は其起りに付ては非常な勢力を持つて居らない、他の傳染病や何かであれば隨分注意して往きますけれども、是は一個人の衛生が即ち世の中の人が皆な病の起るところの譯を辨へて居つて、第一結婚してそれから子供を教育するときからして注意して往かなければ精神を强壯にすることは出來ないでございますから、一個人一個人が皆注意しなければならない、又誰でも知ッて居ることが必要であります、即ち祖先の中に神經の病　或は精神の病があつたときには其子であるとか或は孫であるとか云ふものゝ教育

には餘程注意をしなければならない、又血族結婚のあつた時も矢張注意が肝要である、それから既に世の中に出まして是非困難な所の事業に當らなければならないと云ふ中には休むと云ふことゝ眠ると云ふことが非常に必要であります、之れはろんなことは言はぬでも分つて居ると言はれるかも知れませぬが、此休むと云ふことゝ眠ると云ことゝが輕々しく取扱はれると無理をやる急いでやらなければならないことでありますとつい休まずにやる或は又徹夜をするとか或はそれを續けてやるとか云ふことが起つて來ますと腦に借金が出來ます、吾々の眼を覺して居ります時には始終此神經の力を使つて居る、詰り金で申しますれば始終支出して居ります、それを休むときと眠る時とで取返す、さうして今度は帳面づらへ收入を附けるやうな譯になります、それを附けないと——休みと眠りとを輕んじて勉强致しますと遂には身代限になります、所謂神經衰弱とか其他色々の病になつて來ます、それで此二のものはいつでも缺かないやうにしなければならぬ、其他又事業を執ります時には休みと眠りとの外に幾らか變つたことをやる、一つのことを長い間續けないで其間に變つた事を入れるのも神經を休めるに宜いけれども、例へば劇塲に往くとか碁を打つとか云ふ精神を使ふ樂みと云ふものは精神を休める方の側にはならない、能く氣晴したとか人は言ひますけれども精神を使ふ方の娯みと云ふものは矢張それ丈の骨が折れます、腦に御苦勞を掛ますからして唯野原を散歩するとか云ふ方が腦の爲めになります、一躰に此腦病と云ふて居る人は非常に今の所では多い

唯御覧になりましては能く分りますまいが、吾々醫者とあつて殊に一日に幾人も診ますとなかく〱多くありますから、是非之れは一個人の注意を以て幾らかづゝ豫防する必要があるであらうと思ひます故に、ちよつと一言致して置きます（私立衛生會に於ける醫學士三浦謹之助氏の講演）

衛生叢談

●虎列刺病の實驗談

東京朝日新聞に掲載せる虎列刺實驗談を見に淺草警察署巡査池上某氏は勤務中眞症コレラに罹り直ちに本所松代町なる避病院に入院せしに池上氏は眞症にもあり至つて重病との診察ありしより當時自宅には幼少の男兒一人ありしを即夜親屬の方に預け自身に妊娠中なるにも拘らず妻某は健氣にも良人に附添ふて病院に到り晝夜の看病怠らず誠に人の妻たるの勤めを全うし終に本月七日日數僅か十五日を經て全治退院しめで度淺草千束町なる自宅へ歸ることを得たりとなり池上氏は平生至つて養生家と謂るゝ程にて決して暴飲暴食などする人物にはあらざりしが去月廿二日は朝の中より腹がシクシクと痛み出し大便は少しゆるみたる樣なりしが同日午後十時ごろ俄かに嘔吐こと一回引つゞき劇しく下瀉すること四回に及びしより時節柄打棄置れずと直ちに歸宅して醫師に診察を乞ひしに正しく眞性コレラありとの診斷なりしにぞ早速送院の手續を求め廿三日午前一時ごろ擔架に乘せられ本所避病院へ送られ鷄鳴曉を告る同四時頃病院に到着したり其の途中凡そ三時間を費やした

る爲め幾回となく吐瀉し殊に擔架に搖れしゆゑ身体大いに疲勞を感じたれど幸ひ日中と違ひ夜間のことゝて日光に照つけらるゝ憂ひなかりしは責てもの仕合せなりし扨入院するや直ちに掛り醫員は診察し重症患者なりとて重症室へ移され間もなく水藥と散藥とを與へられぬ當時の苦惱は何と申してよいやら所詮言語の盡すべきにあらず醫員はいづれも熱心に患者の治療に心を盡され重症者には一時間隔に両の腕と胸頭とへ皮下注射を施こされ絶へず氷片を口中に含ませて腹内に凝結せる惡熱を冷却せしめ又晝は二回夜は一回都合晝夜三回づゝ掛り醫員の診察するなど中々注意の屆きたるものなり然れども重症患者のみも入れたる一室ほど恐ろしくも又哀れなるものはなし固より九死一生の患者のみなれば苦惱に堪へずして輾轉の上より轉げ出し障子とも云ず壁とも云ずかぢり着て呻き立るもあり又は非常に衰弱疲勞して殆んど蟲の息を殘し悲しき聲して泣かこつゝもあり或ひはまた此の室に入るをも待ず既に黄泉の客となるもありて其の慘狀目も當られず看護婦は普通患者六七名に一名位の割合なれば藥水を運ぶのと汚穢物を掃除するのとにて中々忙しく實際の處十分に手の屆かぬ憾なきにあらず池上氏は幸ひ貞節なる妻女の始終枕元に附添ひ居たれば治療の注意看護の世話十分に行屆き一時は所詮六かしからんと醫員まで首を捻りしものが天幸にも一週日を經過して後輕症室へ移さるゝこととなり此の室に入りてより一日に三回鷄卵一個おも湯一椀づゝを與へられ夫より追々快方に向ひ三日目にて今度は回復室へ廻されこゝにては大便の檢査を行はれ無毒となりて其

の後五時間養生し遂に入院後十五日目を以て本月七日無事に退院したるなりといふ避病院々長は緒方博士にて日夜病室を巡廻され醫長村上氏も時々診察に廻らるゝよし若し不幸にして此の病患に罹らるゝ人は成べく看護人を連往くか宜らんと池上氏は物語られしとぞ以て一般を知らるべし

◉精神病患者統計

此頃榊醫學博士には巣鴨病院醫事年報を以て精神病患者に關する二十餘枚の最近統計を示さる、斯道のものにあらざるも、之れを見れば益を受くること尠少からず、七百餘人に對する一年間の統計は左の如しと

一病性は躁狂及偏執狂に多數なり

一精神病を發するは冬時の候にあり

一年齢は成年期(自二十一歲至五十歲)のもの最も多し

一職業は商に從事するものに甚だ多し

一先代の遺傳症(素因)は精神病神經病及飲酒過多の三なり

一患者四分三は著明の誘因あり家計困難酒精中毒の二者に多し

一遺傳素因ありて誘因の侵犯せしもの最も多し

一發病より全治に至る日數は一月乃至半年を最も多しとす

一患者の過半數は本病の外に身体上の合併症を有す

一合併症には胃加答兒梅毒及臟躁狂を最も多しとす

◉倫敦の衛生

倫敦の衛生は全世界中最も趣味あるものなるが是

れ倫敦は世界の大都府たるがためのみにあらず又其衛生の最も進歩したるがためのみにあらずして寧ろ衛生學の進歩に伴へる精密なる記録の久しき以前より在存せるがためなり其筋の調査に據れば倫敦市民の平均命數は千八百六十一乃至七十年の時期に於て五歳以上の男子は四十七歳四分九厘同じく女子は五十歳八分七厘ありしが千八百八十一乃至九十年の時期に於て男子は五十歳七分七厘女子は五十四歳四分三厘に增加せり又泰裴土熱は同地に於て著しく減少したれども實布的里亞の流行は衛生上非常の影響を及し千八百六十一乃至七十年の時期に於ける死亡の割合は千人に對する一分二厘なりしが千八百九十三年には七分四厘に上れり(去月二十一日香港デイリー、プレッス)

●軍人軍屬入院手續

去る五日勅令第百四十號を以て軍人軍屬公務に起因したる傷痍疾病治癒の後ち再發したる者の治療の件を發布せられたるに付陸軍大臣は今回入院治療を受けんと欲する者の出願手續を左の如く規定したり

明治二十八年勅令第百四十號に依り入院治療を受けんと欲するものは其願書に陸軍醫官又は地方醫師の診斷證書を添へ最寄衛戍地の陸軍病院に願出で病院長は其書類を當該軍醫部長に出し審査を經たる後ち衛戍司令官又は師團長の認可を得て之を許可す其入院中の諸費は病院に於て支辨するものと定む

●痘苗取締規則の制定

大日本私立衛生會に於ては明治廿一年内務省所管なる牛痘種繼所を受繼き以來良善なる痘苗を製出

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して學術の進運に隨伴することを勉め其後該所製出の痘苗は直ちに犢牛より採收することゝ爲し且其犢牛は獸醫學士に托して其病健を檢定し加ふるにツベルクリンを注入して結核病の有無を確定し愈々健全にして純粹精良なるものならざれば販賣せざることゝせり然るに近來に至り民間往々不良の痘苗を製造販賣し危害少なからざるに付頃日其筋に於ては痘苗製造販賣に付て一の取締規則を制定せん爲め委員を設け夫々調査中なるが右調査も略ぼ終了したるに付近々勅令として發布せらるゝに至るべしとなり

◉不具の多い國

獨逸邊には非常に猪背、跛者、片眼などの不具多く中以下の青年小供を睹る時には片輪の國とか怪しまるゝ程にて鳥渡洋行せし人を驚かす由右は道に醫術の淵源とも云はるゝ邦だけに刀圭の術巧妙なるより小供の命殆ど旦夕に迫り又たは危急の者をも種々に工風して助くるより露の生命は留め得しも病者は自然不具となつて生活する爲め斯く片眼、跛者、猪背などの多き譯なりと仔細を聽けば成程と想はれぬ、今に日本も右の次第となるべしとのとなるが此上の慾には不具になさで滿足に助けたきものなり

◉近視眼の增加

明治二十年より二十四年に至る五箇年間徴兵檢査の際、近視眼、遠視眼を患ふるが爲め兵役を免除せられしものゝ總數を聞くに明治二十年には五百十四人、同二十一年には一千三百九十五人、同二十二年には二千百二十七人同二十三年には二千七百六十四人同二十四年には二千三百八十一人なりし

と云ふ則ち二十年には僅かに五百十四人ありしも二十三年二十四年には急に増加して四倍若くは五倍以上に上りたる割合なり而して遠視眼を患ふるものは太だ尠く一年二十一人以上に上りしことなしと云ふ

●衛生上の注意

目下小兒に胃病者多しこれは菓子の原料たる砂糖に有害汚物の混和しあるを其まゝ使用するものあるに原因する事をその筋にて發見したるに付き以後は臨時に製造者方に至り實見する事に取極めたりといふ就てはアンペラの煎じ汁を菓子パンに入るゝ事も嚴重に取締りが付けて欲い

●再歸熱と地方衛生會

全熱蔓延の兆あるより其筋にては地方衛生會を開き其の豫防法に付て講究する筈なりと、又該病に關し豫防規則等の制定ある迄は腸窒扶斯、發疹窒扶斯病に關する豫防手續を便宜應用する由

●肺患豫防の注意

頃日某温泉場より歸りたる醫學士曰く肺病患者の宿せる温泉場旅店等には愼んで宿すへからす肺病患者の平生起居する室内の壁の縁りの塵芥を取りて試に之を顯微鏡に照らすに必すバクテリヤあり隨て肺病患者の家には長く同居すへからす家屋移轉の際にも古き明屋あれは能く注意して壁は必す取替へ室内を充分消毒し掃除して移住するを要すと

●臺灣蕃民の醫術

臺灣の蕃民は醫藥あるものを知らす疾病の際は各自溪澗の清き冷水に身を投じ神に祈願する外治療法なし故に蕃民を服せしむるには醫藥を投じて難

病者を救ひ我れを神の如くに思はしめむは最も捷徑ならんと臺灣より歸りしものは云へり

●東京豫備病院の患者總數

昨年九月より本年十月に至る戰爭間の東京豫備病院入院患者中戰地歸朝傷者は二千八百九十八人病者は七千二百三十九人にして內傷者死亡八人、病者死亡九十五人合計一万〇百三十七人ありしが死亡者は僅に百三名に過ぎざりしよし

●大日本婦人衛生會總會

去月五日第一土曜日華族會館に於て總會を開く總裁　小松若宮御息所殿下にも御臨場被爲在出席員五十四餘名席定るや醫學博士濱田玄達君には分娩時の養生法を說かれ次に醫學士坪井次郎君には諸種の掛圖若くは骨格臟腑肺量器等の標本を示し生理及解剖學上に就て演說せられ當日本會半年度事務及收支決算等を一々揭示して報告をなし茶菓の接待ありて四時半頃散會せり

廣告

半年度收支決算

自明治廿八年三月
至明治廿八年八月

收入ノ部

金參百八拾六圓四拾一錢九厘

內譯

一金貳拾六圓九拾壹錢九厘	前年度越高
一金參百八圓五拾錢	會費集高
一金參拾九圓	懇親會費
一金貳圓	懇親會寄附
一金拾圓	懇親會入費ノ內へ有志役員出金高

支出ノ部

一金九拾九圓九拾貳錢五厘　雜誌印刷料
一金拾七圓貳拾八錢八厘　諸印刷料
一金四圓四拾六錢　會塲費
一金拾貳圓五拾錢　速記料
一金參圓六拾錢　切拔通信料
一金拾參圓拾五錢五厘　郵税
一金五圓五拾七錢　郵便端書
一金參圓九拾六錢貳厘　筆墨紙料
一金拾參圓拾錢　器具費
一金參圓七拾壹錢四厘　雜費
一金參圓參拾四錢　總會入費
一金七拾四圓拾貳錢五厘　懇親會入費
一金參圓　臨時費
一金四拾八圓　雜誌編輯事務給料
一金五拾圓　三井銀行預金
一金貳拾六圓拾五錢　會費雜誌通知集配手當
合計支出金參百八拾壹圓八拾八錢九厘

収支差引殘金

一金四圓五拾三錢

現在三井銀行預金

一金貳百參拾參圓八拾七錢五厘
一金七圓四錢七厘五毛　利子
合計金貳百四拾圓九拾貳錢貳厘五毛

會員總數　七百五十五人

內譯

終身會員　貳拾人
特別會員　貳拾八人
贊成員　六拾七人
千葉支會會員　參拾參人
通常會員　六百七人

去十月より十一月に至る入會者左の如し

◉幹事高木かう子の介により
牛込若宮町二十六番地　通常會員　板垣芳子

◉特別會員吉武輝枝子の紹介により
芝公園二十一號八番地　通常會員　門野駿子

◉通常會員大澤とよ子の紹介により
神田猿樂町二番地　通常會員　有泉房子

廣告

◉幹事鳩山春子高木こう子兩名の紹介により
神田駿河臺南甲賀町八番地　通常會員　三守ます子
青山南町七丁目一番地青山寺院　通常會員　本多てい子
牛込揚場町十七番地　通常會員　牧野きよ子
麹町富士見町五丁目廿二番地　通常會員　永田けい子
◉事務所へ申込により
下澁谷村日本赤十字社病院　瀧川はる子
◉通常會員福原きよせ子の紹介により
牛込鷹匠町三番地　通常會員　志水房子
◉會員梅林寺とよ子の紹介により
第一醫院　安田はる子
◉會員河本うめ子の紹介により
第一醫院　船山みね子
第一醫院　長谷川はる子
第一醫院　藤本まさ子
◉地方會員中野悦子の紹介により
新潟縣中蒲原郡一本木村　贊成員　原正君
新潟縣中蒲原郡沼垂町　贊成員　八木三七君
新潟縣中蒲原郡横腰村　通常員會　小林かく子

◉通常會員石川定子の紹介により
京橋南鍋町二丁目四番地　通常會員　立川貞子
◉會員加藤ふみ子の紹介により
下澁谷村日本赤十字社病院　服部たき子
◉通常會員樋口八重子の紹介により
日本橋濱町三丁目一番地　通常會員　若林かね子
◉通常會員篠原さだ子の紹介により
芝榮町十三番地　通常會員　久松貞子
◉會員井澤ろく子の紹介により
深川洲崎辨天町一丁目三番地　島田りん子

轉居

蠣殼町二丁目七番地へ　小林延之助君
麹町飯田町六丁目廿四番地へ　榊原あや子
駿河臺北甲賀町へ　小出みね子
牛込若宮町廿九番地へ　橋本貞尾子
麹町永田町官舍へ　大山捨松子
京橋木挽町一丁目十五番地佐伯方　安西なを子
高知縣高知市本町筋三丁目へ　野並三種子
芝區明舟町十八番地へ　武富すみ子
小石川區原町十三番地木村方へ　清水ふき子

大日本婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會するとを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但し事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を贊成する者は之を贊成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身贊成會員(無會費)とすると有る可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托するとあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて　第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くとあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外每月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　每會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し每月各一册つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を會々塲に誘致して傍聽せしむるとを得

第十七條　本會講義演說の際男子の傍聽を禁ず

但會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

務所に引出置を得

第十九條 會計の收支は總て會計課幹事の捺印を要す

第二十條 會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條 會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割増とす

第廿二條 入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふ可し

第廿三條 毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すとを得

第廿四條 三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條 規則の範圍内に於て役員の評議を以て細則を設くることを得

第廿六條 會各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條 本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條 會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條 入會後轉居する者は速に事務所に通知ある可し尤も死去の節は親戚知友等より通知ある可し

第三十條 退會せんとする者は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

明治二十五年九月

東京下谷區練塀町四十三番地

私立 大日本婦人衛生會

明治廿八年十月三十日印刷
明治廿八年十一月一日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎
印刷者 同 神田區小柳町十三番地 小高良造
印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可 第一金曜日發行 (定價金拾錢)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN